

今年初めて、これまでの作者自選から選考委員がすべての作品を対象に選ぶことになりました。これまでは口語詩句賞（新人賞）への応募作と自選作選出がダブらないように提出しなければならなかったため、応募の皆さんにはかなりの負担があったことでしょうが、今回はそれらをまとめて選考することができるようになりました。その一方、選考委員の美意識と好みをクッキリと反映することとなり、議論は白熱したスリリングな場となりました。

しかし奨学生全体としてはかなり一致した結果が見られ、この方法に齟齬は無いように思われます。応募者の方々もこの結果から、それぞれの選者の想いを汲み取っていただけると幸いです。

議論を通じて感じたことは、この場は相当に難しい挑戦の場であることでした。口語というものは日常の言葉であるだけに、短い詩句の中で一つの作品としていわゆる“決めポーズ”を作ることの難しさは容易に想像できます。口語詩句が目指すところは、最終的には口語ならではのスタイルを作ることでしょうが、そういう試行錯誤のなかで、テーマやモチーフも自然に広がりを見せていくと思われます。

また、この応募の場では、その作品がどのジャンルに属するのかを自己申告することになっていますが、例えば、一つの作品を「俳句」と「川柳」と「詩」のどれとして申告するのかなどは悩ましいときがあるのではないのでしょうか。「短歌」と「詩」の場合も同じでしょう。しかし口語ならではの作品が現れるときには、ジャンルというくくりを超えるものが出るのではないかと、期待と共に考えています。

以下、今回わたくしが選んだ奨学生の方々の作品のいくつかをご紹介します。

福山ろか

- ・生きていて扇風機売り場を通る
- ・田螺にて悠久を逆さまに這う

高田皓輔

- ・瓶詰めの中の圧力 乗り継いで
川に来たけどすることがない
- ・飼っていいか聞かないで飼うユニ
コーン
- 庭が広くてよかったと思う

松下 誠一

- ・春の手の皴やわらかく言いなおす
- ・前職のクセで背びれが動いちゃう

波野 梅雨

- ・夢見る準備はできてるぜ相棒
四つ耳の君へ
- ・美しく咲きたい花は
沈黙と
集合体と歩く

雲理そら

- ・堂々と水飲む よわい花のまま
- ・つみあげた失敗で
ジェンガをしている
あなたが泣きやまないのに
夜が、

汐見りら

- ・食べていいフルーツなのか
分からずにティーだけ啜る
都市とは覚悟
- ・泣き顔に見惚れていれば
右利きのあなたに刺しやすい左胸

さいう

- ・祖母の骨
ひろう
右手のよどみなく
思慕は五感のようにあやうい
- ・顔も知らぬ
父の生家に向かうとき
わたしウォーターリリーのつるぎ

金光 舞

- ・カーテンは昏さを抱き冬桜
- ・サルビアが心臓なら 鳳仙花は癌
母さん、戻ってこないけど

ずっと言ってんの

大西 美優

- ・昼の星卵子凍結灰めかす
- ・ケチャップのとめはねはらい
雲の峰

奥井 健太

- ・石路の花吸う時灯る煙草です
- ・目覚めてもまだ風船は天井に

ムクロジ

- ・羊みな耳標を持って冬茜
- ・桜咲くことがニュースになる国で
光に重さなんてなかった

マズルカ

- ・プの音が出ない
ハモニカ売り飛ばし
少女はンと鳴く男を探す
- ・わたくしの鬱を流せよ暴風雨
ひとのカタチを少し崩して